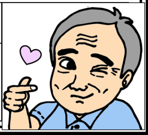
国語学習プリント　　漢 文 入門　　　date：　　年　　月　　日

学習内容：故事成語ー中国の名言ー　　　年　　組　　番

日本語の歴史　漢文　　　氏名



もともと「やまとことば（和語）」という「話し言葉」しか有さなかった我が国。大陸との交易により、文化や宗教、そして文字という「書き言葉」が伝来してきます。いわゆる「漢字」です。漢字の特徴は、「表意(ひょうい)文字」といって、文字そのものに意味を持っていることです。これに対して、西洋の文字は、アルファベット（A・B・C・・・）等、記号であって、音を表す「表音(ひょうおん)文字」ではありますが、ひとつひとつの文字に意味を持つ「表意文字」ではありません。

漢字という外来の「書き言葉」を日本語である「やまとことば」と融合していったのです。我が国のもっとも古い書物である「古事記(こじき)」は、日本語の音や響きをそのまま読めるように漢字を当てた万葉(まんよう)仮名で表記されています。同時期に編纂(へんさん)された「日本書紀」は対外的な側面もあってか、こちらは漢文（中国の言葉）で書かれました。ともかくも日本の歴史を振り返る上で「書き記して伝える」書き言葉を持ったのは、このときなのです。

平安時代になると、これまで万葉仮名であった「漢字」をくずして、片仮名・平仮名が生まれます。ここから「表意文字」である漢字と「表音文字」である仮名とのハイブリッド化（組み合わせ）による「日本語」が完成形へと向かっていくのです。

さて、ここでは、日本語の基となった漢語（漢文）について学んでいきましょう。教科書では、P126 に載せられていますので、あわせて見ていくといいと思います。

漢文とは次のようなものです。見てわかる通り、漢字だけの文です。この漢字だけの文（「白文(はくぶん)」）は、日本語とは文法的にも違うのです。おそらく、漢文を理解するには、日本語として読めるようにすれば、自(おの)ずと内容も理解できると考えたのでしょう。漢文を読めるようにするために、「送り仮名」「句読点」、「返(かえ)り点」といった「訓点(くんてん)」を設けました。「送り仮名」は漢字の右下にカタカナで、読みの順を示す「返り点」は漢字の左下に置きました。これら訓点を配した文を「訓読(くんどく)文」

矛盾　韓非子　白文

楚人有鬻盾与矛者
誉之曰
吾盾之堅莫能陥也
又誉其矛曰
吾矛之利於物無不陥也
或曰
以子之矛陥子之盾何如
其人弗能応也

といいます。

訓読文

矛盾(むじゅん)　**「韓非子(かんぴし)」**

楚(そ)人(ひと)ニ、有(あ)リ下鬻(ひさ)グ二盾(たて)ト与(と)ヲ一レ矛(ほこ)者(もの)上。
誉(ほ)メテレ之(これ)ヲ曰(い)ハク、
「吾(わ)ガ盾(たて)之(の)堅(かた)キコト、莫(な)キ二能(よ)ク陥(とほ)スモノ一也(なり)ト。」
又(また)、誉(ほ)メテ二其(その)矛(ほこ)ヲ一曰(い)ハク、
「吾(わ)ガ矛(ほこ)之(の)利(り)ナルコト、於(お)イテレ物(もの)ニ無(な)キレ不(ざ)ルレ陥(とほ)サ也(なり)ト。」
或(あるひと)曰(い)ハク、
「以(もつ)テ二子(し)之(の)矛(ほこ)ヲ一、陥(とほ)サバ二子(し)之(の)盾(たて)ヲ一何如(いかん)ト。」
其(そ)ノ人(ひと)、弗(ざ)ルレ能(あた)ハレ応(こた)フルコト也(なり)。

漢字の右横にふられたひらがなは、読みを表す「ふりがな」です。

漢字の右下にふられたカタカナは、「送り仮名」です。

漢字の左下にふられた符号は、「返り点」です。

あとは、先人が編み出した「返り点」の規則を理解できれば、「漢文」を読めるようになります。

返り点の規則

▽レ点　下の文字から一つ上（すぐ上）の文字に返る
《一つ上の語に返る時に用いる》

▽一二点　「一」のついた文字が読めたら「二」へ返る
《二つ以上、上の語に返る時に用いる》

※上下点（甲乙点）も一二点と同様の規則

※返り点は、言葉のとおり「前へと返る（もどる）」のです。
先へ飛ぶことはありません。

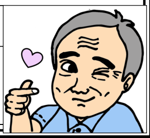
※一二三と「三」まである場合（上中下、甲乙丙）
「一」を読めたら「二」に返り、次に「三」に返って読む

◎大前提として上から順に読み、返り点があったら気を付けるとよい。

国語学習プリント　漢 文 入門　date：　年　月　日

学習内容：故事成語ー中国の名言ー　＿年＿組＿番

日本語の歴史　漢文　氏名



▼漢文訓読の練習

例 A BレC　← A C B（順に書き並べてみよう）

① AレB CレD　←

② A BレCレD E　←

③ A B二 C D一 E　←

④ A二 B C D一 E二 F G H一　←

⑤ A下 B C二 D E一 F上　←

次は実際の漢文でやってみましょう。

「矛盾」のはじめの部分の読みの順を数字で右にふってみました。

楚 人ニ 有リ下 鬻グ二 盾ト 与ヲ レ 矛 者上。
1 2 8 6 3 5 4 7

この数字の順番どおりにカタカナでふられている「送り仮名」は「ひらがな」に直しつつ書いていくと、こうなります。

楚人に盾と矛与を鬻ぐ者有り。

日本語らしくなったと思いませんか。ただ、難点をというと、「与」のところでしょう。日本語では、「付属語（助詞・助動詞）」を漢字で書き表しません。漢文において付属語にあたる漢字はひらがなに直せばより日本語らしくなります。右の文の場合の「与」は「と」と読むので、ひらがなの「と」にします。

楚人に盾と矛とを鬻ぐ者有り。

これで、古の日本語（古文）になりました。この漢字仮名まじりの文の形態を「書き下し文」といいます。このほかにも、「置き字」といわれる訓読の際にも、書き下しの際にも無視して扱う漢字があります。『而』『於』『于』『乎』『矣』『焉』『兮』などです。また『也』も置き字として扱う場合があります。

これにより、「教科書」によって書き下し文の表記が異なることがあります。どちらも間違いではなく、どう読もうとしているかで変わってくるのです。教育出版の書き下し文は、つとめて生徒に分かりやすいように難読な漢字もひらがなに直しています。また、――線部のように読んでいるのは、訓読文の送り仮名を変更し、文末の『也』を「置き字」としたためと思われます。

光村図書　書き下し文

矛盾

楚人に、盾と矛とを鬻ぐ者有り。之を誉めて曰はく、「吾が盾の堅きこと、能く陥すもの莫きなり。」と。又、其の矛を誉めて曰はく、「吾が矛の利なること、物に於いて陥さざる無きなり。」と。或るひと曰はく、「子の矛を以て、子の盾を陥さば何如。」と。其の人、応ふること能はざるなり。

教育出版　書き下し文

矛盾

楚人に、盾と 矛とを ひさぐ 者 あり。これを ほめて いはく、「わが 盾の 堅きこと、よく とほす もの なし。」と。また、その 矛を ほめて いはく、「わが 矛の 利き こと、物に おいて とほさざる なし。」と。ある 人 いはく、「子の 矛を もつて、子の 盾を とほさば いかん。」と。その 人 応ふる こと あたはざるなり。

訓読文

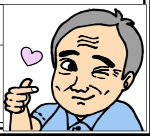
「吾ガ 盾 之 堅キコト、莫シ二 能ク 陥スモノ一 也。」

置き字 → 也

国語学習プリント　**故事成語**　date：　年　月　日

学習内容：故事成語ー中国の名言ー　＿＿年＿＿組＿＿＿番

日本語の歴史　漢文→故事成語　氏名



書き下し文

矛盾

楚人（そひと）に、盾（たて）と矛（ほこ）とを ひさぐ 者 あり。これを ほめて いはく、「わが 盾の 堅（かた）き こと、よく とほす もの なし。」と。また、その 矛を ほめて いはく、「わが 矛の 利（と）き こと、物に おいて とほさざる なし。」と。ある 人 いはく、「子（し）の 矛を もつて、子の 盾を とほさば いかん。」と。その 人 応ふる こと あたはざるなり。

助長

宋人（そうひと）に その 苗（なへ）の 長（ちやう）ぜざるを うれへ、これを ぬく 者 あり。芒芒然（ばうばうぜん）として 帰（かへ）り、その 人に いひて いはく、「今日（こんにち） 病（つか）れたり。予（われ） 苗を 助けて 長ぜしむ。」と。その 子 はしりて 往（ゆ）きて これを 視（み）れば、苗 則（すなは）ち かれたり。

▼ひさぐ（鬻（ひさ）ぐ）　売る

▼いはく（曰く）　言うには

▼利（と）き　鋭い

▼いかん（如何）「いかに」から転じた　どうなるの

▼あたふ（能（あた）ふ）　できる

▼長ず　伸びる 成長する

▼うれふ（閔（うれ）ふ）　心配する

▼芒芒然（ばうばうぜん）「茫然（ぼうぜん）」の強意　ぼんやりする

▼…しむ　〔使役〕…させる。

▽「わが 盾の 堅（かた）き こと、よく とほす もの なし。」の意味（訳）

▽「わが 矛の 利（と）き こと、物に おいて とほさざる なし。」の意味（訳）

▽「子（し）の 矛を もつて、子の 盾を とほさば いかん。」の意味（訳）

▽その 人 とは、誰を指すのか。

▽応えられなかった理由とは

▽この昔の出来事（故事）から生まれた言葉と意味

・言葉←

・意味←

◇宋人がうれいたこととは何か。

◇予（われ） 苗を 助けて 長ぜしむ。の意味（訳）

◇この出来事から生まれた言葉と意味

・言葉←

・意味←

もうひとつの意味←

国語学習プリント　　故事成語　　date：　年　月　日

学習内容：故事成語ー中国の名言ー　　＿＿年＿＿組＿＿番

日本語の歴史　漢文→故事成語　　氏名

☆次の□に入る故事成語を「故事」や「意味」から想像して書きなさい。

□
故事　唐の詩人賈島（かとう）が、「憎推月下門」の詩句の「推」を「敲」にしようかと迷ったことから
意味　詩文の字句を練り、書きなおしていくこと

□
故事　最初に蛇の絵を描き上げた者が、蛇にはない足を描き足してしまったことから
意味　あっても役に立たない余計なもの

□
故事　項羽（項王）は漢の兵が四方で楚の歌を歌うのを聞き、漢は楚の地を占領したのかと嘆いたことから
意味　敵中で孤立すること

□
故事　シギと貝が争っているとき、通りかかった漁夫（漁師）が両方を得たことから
意味　両者が争っている間に第三者が利益を横取りすること

□
故事　戦の中で五十歩逃げた者が百歩逃げた者を臆病者と笑ったことから
意味　わずかな違いで本質は変わらないこと　大差のないこと

□
故事　杜黙（ともく）が作る詩は自由奔放で、作詩の規則を無視したものが多かったことから
意味　著作物に誤りが多いこと　やることに手ぬかりが多いこと

□
故事　宋の国の人が走って来た兎（うさぎ）が株にぶつかって死んだのを見てそれ以来、働きもせず株の番をしていたが、兎は得られなかった
意味　古い習慣にとらわれて全く進歩のないこと　融通のきかないこと

□
故事　杞（き）の国の人が、天が崩れ落ちてこないかと憂（うれ）いた（心配した）ことから
意味　取り越し苦労をすること　無用の心配

□
故事　春秋時代、呉と越の国は敵どうしだったが、もし暴風のとき、同じ舟に乗っていれば協力し合うだろうという孫子の言葉から
意味　仲の悪い者が同じ所に居合わせること

□
故事　最難関の科挙（かきょ）の試験において、試験官が最もすぐれた答案を他の答案を圧するように一番上に置いたことから
意味　全体の中で最も優れているもの

□
故事　張楷（ちょうかい）が道術によって、五里四方にわたって霧を起こし、姿をくらまし惑わせたことから
意味　物事の事情が全くわからず、方針や見込みが立たないこと

□
故事　問答をしかけられた旅の僧侶は、偉い僧侶に対し「喝！」と何度も返し、偉い僧侶が、三喝、四喝の後はどのようにおさめるつもりかと問うたことから
意味　初めは勢いがよいが、終わりは振るわないこと

□
故事　文人・韓愈（かんゆ）の「与孟尚書書（もうしょうしょにあたうるのしょ）」の一文「其の危うきこと一髪の千鈞（せんきん）を引くが如し」から
意味　一つ間違えれば重大な危機にさらされる瀬戸際

□
故事　供辰（きょうしん）が、政府高官一派の不正をあばき、検挙した際に「われ、一網に打ち去り尽くせり」と叫んだところから
意味　一味の者を一度で全部つかまえること

□
故事　甘い汁を吸っていた役人の談。「楊逸（ようい）という長官は千里眼を持つ。何でもお見通しだ」と言ったところから
意味　千里も先のことまで知ることのできる能力

「百聞は一見に如（し）かず」これも故事から生まれた言葉です。

故事としては、「漢の皇帝が漢に従わない異民族の軍勢について老将軍の趙充国（ちょうじゅうこく）にたずねると、趙充国は『百聞は一見に如かず』と老齢にムチ打ち、実際に見に行った。」ことによるものです。

意味としては、「人から何度も聞くより、自分で一度見た方がよくわかる。」というものです。

これを漢文で書くとこうなります。

百聞ハ不ズㇾ如シカ二一見ニ一

□に入る故事成語候補

漁夫の利　杜撰　千里眼
四面楚歌　呉越同舟　圧巻
五十歩百歩　推敲　守株
竜頭蛇尾　杞憂　五里霧中
蛇足　一網打尽　危機一髪